



アメリカジョージア大学での在外研究を終えて

こども発達・特別支援講座 瀬尾 知子

2019年9月から2020年3月までの約半年間、在外研究を行ったジョージア大学は、アメリカの南部を代表するジョージア州にあります。ジョージア州は1776年にイギリスから独立した最初の13州の1つです。ジョージア州の州都であるアトランタには、コカ・コーラやCNNの本社があり、アトランタ国際空港はデルタ航空のハブ空港であり、世界一忙しい空港といわれています。また1996年にアトランタ・オリンピックが開催されたことでも知られています。



ジョージア大学・キャンパス内

ジョージア大学は、アトランタから東に約100km、車で約1時間30分のアセンズに立地しており、全米で最も古い歴史をもつ州立大学の1つとなっています。アセンズは学園都市であり、街を歩いているときや、バスに乗っている時にも人々は気さくに話しかけてきて、街も人々もとても温かい雰囲気でした。ジョージア大学は、研究大学として知られ、多くの研究者が海外から集まり、世界中の人々と繋がって研究を進める環境がありました。また、ジョージア大学はアメフトがとても盛んで、ジョージア大学のアメフトの試合には州民がこぞって応援にかけつけ、大いに盛り上がります。滞在期間中に、ジョージア大学のアメフトの試合がある日には、シンボルカラーである赤いもの（Tシャツやトレーナー、帽子、スカーフなど）を身に付けることが必須となっていました。

アメリカの生活で一番の違いを感じたのはクリスマスの過ごし方です。11月の第4週目の木曜日



ジョージア大学・アメフトスタジアム

のサンクスギビングデーが終わると、一気に街並みや装飾等がクリスマス一色となります。アメリカのクリスマスイブやクリスマスは、日本のように恋人や友達とパーティーをするのではなく、家族と一緒に過ごす日というイメージを持っていました。しかし、クリスマスイブ、クリスマスの日には、スーパーやショッピングモール、レストランが閉まっているとは想定外のことでした。クリスマスイブに、イルミネーションを楽しみながら、レストランで食事をしようとして外に出てみると、市内はとても閑散としていました。結局、レストランに行くこともスーパーで買い物することもできず、アパートに残っていた、缶詰やトルティーヤを食べました。これまでの人生の中で一番質素なクリスマスイブとなりました。その後、私の受け入れ世話人教員のJoseph J. Tobin教授にその話をしたところ、その分、大晦日

アセンズ・クリスマスイブの風景





大晦日・Tobin 教授のご自宅



ジョージア大学 McPhaul Center

には、一緒に夕食を
 しましょうと
 いて、ご自宅に招待いただき、盛大にご馳走していただきました。
 研究面では、私は「幼児期の食育と社会情動的スキルの発達 - 日本とアメリカの子どもの食事場面の比較研究 - 」というテーマで研究を行いました。この研究を行うためには、アメリカの幼稚園で幼児の食事場面のビデオ撮影と保育者へのインタビュー調査を行うことが必要であり、その許可を得るには、日本とは違う難しさがありました。研究許可を得るまでに多くのプロセスがあり、研究倫理審査のための書類作成、幼児とその保護者、園長先生はじめ担当保育者から研究同意



の食事場
 面をいただくための手続きを行い、さらに、ジョージア州で子どもに関する研究を行うためには Criminal Record Check を行う必要もありました。気が遠くなってしまいそうなほど、色々な申請書を作成し、時には「本当にアメリカで研究をすることができるのだろうか」「研究倫理審査をしているうちに半年間が終わってしまうのではないか」といった不安に駆られ、何度もくじけそうになりました。そのようなときも、私の受け入れ世話人教員の Joseph J. Tobin 教授は、「私がついているから大丈夫」「やりたい研究は必ずできます」と、いつも温かい励ましと助言をしていただきました。
 ジョージア大学附属 McPhaul Center 園庭

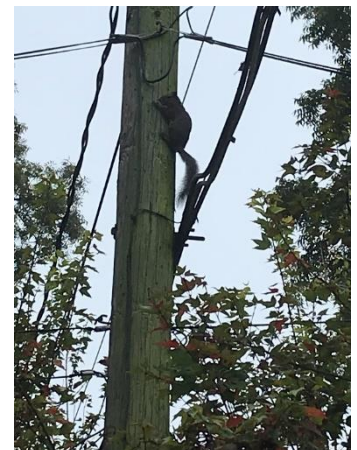
幼稚園での研究は、ジョージア大学附属 McPhaul Center でさせていただいたのですが、研究依頼のために園長先生にお会いし、一人汗だくになりながら、研究の必要性や研究計画の説明をしたことも、今となってはとても良い経験となっています。私の受け入れ世話人教員の Joseph J. Tobin 教授からは、研究の方法論的なことだけでなく、研究に対する鋭い視点と厳しさといった、研究に向かう真摯な姿勢も学ばせていただいたように思います。ジョージア大学での在外研究を通して、Joseph J. Tobin 教授はじめ、幼児教育を専門とする教員の方々や院生の方々と、研究に関して議論をシェアったり、苦楽をともにしたりすることで、海外の学会で出会っただけでは得られない、かけがえない人とのつながりをもつことができました。いろいろな人に支えられ、充実した研究生活を過ごせたことに感謝し、今度は、私が、多くの人のために自分の出来ることをしていきたいと思っています。



ジョージア大学 McPhaul Center の食事場面

末筆となりましたが、このたび研究者海外派遣事業の貴重な機会をいただき、多くの方々の支援を受け充実した期間を過ごすことができました。貴重な機会を与えていただいた本学関係者のみなさま、快く送り出してくださった教育文化学部の先生方、アメリカに渡航するにあたり、様々な手続きに対応してくださった事務方のみなさま、この場をお借りして御礼申し上げます。アメリカの在外研究で得た成果を、今後の大学ならびに学部での教育・研究にかしていきたいと思います。

毎日のように見かけたリス





世界史の教科書では、ヨーロッパ諸国が二度の世界大戦後、ひとつの共同体を作ってきたことを学びます。そこでは、ヒトやモノが国境を越えて自由に行き交うことが促進され、一部を除きユーロという統一の通貨が流通しています。それでは、「国境」という発想や「国家」という単位はどのように生

まれたのか。近年では、押し寄せる難民への対処、イギリスのEU離脱、新型コロナウイルスへの対応が示すように、各国の社会情勢や利害は千差万別です。国境や国家がなぜ必要だったのかを突き止めるには、国ごとに様々な視点とともに、時には日常的な思考から離れ、歴史をさかのぼって考えることも重要です。

1337年から1453年、英仏間で行われた「百年戦争」は、そのヒントを与えてくれる出来事の一つです。年号からご想像のように、日本でいえば室町幕府誕生の頃に始まり、序盤戦では、後に「黒死病」と呼ばれるペストが大流行しました。終盤戦では、フランスでも日本でも人気のジャンヌ＝ダルクが登場します。彼女が救った中仏の町オルレアンの教会には、今もその生涯がステンドグラスを通して伝えられています（写真）。

1337年以前にも、イングランド王とフランス王はそれぞれ領土を広げていました。お互い、キリスト教世界のトップであるローマ教皇に戦いを挑むほど、力を付けていました。しかし当時、二つの王国と住民は、「国家」や「国民」と呼べるほどには強くまとまっていなかった。

たとえば、当時のイングランド王はスコットランドやウェールズにも侵攻する一方で、南西フランスの一角に領土を持っていました。ワイン取引で有名なボルドーの周辺です。そして、この領土に限っては、フランス王の家臣となることで領有と支配を認められていました。

当時のイングランド王家の発祥地は、フランスの北西部に位置し、古城巡りで有名なロワール地方です。イングランド王、王家の人々、家臣達はフランス王とほぼ同じ言葉、現在の仏語の元になる言葉を話していました。かれらが、古い英語を話すブリテン島の人々を治めていました。

国際文化講座 佐藤 猛

英仏は領土や言語さらには王家間の結婚を通じて、知恵の輪のように交わっていたのです。ドーヴァー海峡に国境は引かれていませんでした。ここでフランス王家に王位継承問題が起こり、これをきっかけに、家臣のイングランド王が主君のフランス王に反逆する形で戦争が勃発しました。

英仏ともに五世代に及ぶ戦争の過程で、どこかに国境を引いて、領土を切り離す必要が叫ばれます。イングランド王は国内での仏語の使用を禁じ、フランス王はイングランドと和平を結ぶ際、娘を嫁がせることをやめました。戦後、イギリスは海外植民地の開拓、フランスはハプスブルク家との対決へと突き進みます。

イギリスとフランスはこの百年戦争を闘い抜くことで、国境・愛国心・固有の言語を備えていきます。少し専門的にいいますと、両者は史上初めて「主権国家」ないし「国民国家」として歩み始めます。この度の著書では、両王の長きにわたる戦闘と交渉の過程について、当時の歴史書、王の勅令、条約文書、裁判記録、日記などを分析しつつ描きました。

こうして、英仏が別々の国であるという、日常では疑うことのない前提を忘れることで、初めて両国の国家ないし国民としての出発点が明らかになります。国境で区切られた主権国家が並び立つ世界観は、19世紀後半以来、明治に突入したばかりの日本にも伝わって来ました。

その延長上にある現在、未知の悪疫が大流行する中、ヨーロッパにおいては、長い時間をかけて取り払われてきた国や都市の境が一時封鎖されました。日本では災害時と同様、「国の権限や責任」が問われています。国境や国家の役割を問い直す機会なのかもしれません。

最後に、心臓の難病治療のため、補助人工心臓という医療機器を装着しながら本書を執筆しました。この間、国際文化講座を中心に先生方と事務職員の皆様には、機器操作の講習受講、会議や行事への付添い、送り迎えなど支えていただきました。この場をお借りして、御礼を申し上げます。



遠隔授業への臨み方と工夫

こんにちは。秋田大学教育文化学部地域文化学科2年次の工藤やよいです。学生協議会の学生委員として、こちらの「みなおと」に寄稿させていただきました。

秋田県を含む39県で、新型コロナウイルス特措法に基づき発令された緊急事態宣言が5月14日に解除されました。しかし授業はすべて遠隔で行われるため、私は依然と引きこもり生活を続けています。カレンダーを見て、春とは言い難い6月になろうとしていることに驚きました。キャンパスと家を往復する何気ない時間が、季節の移り変わりを教えてくれていたのだと痛感します。皆さんはどのようにお過ごしでしょうか。

遠隔授業がはじまって数週間が経ちました。新入生にとっても在校生にとっても、誰にとってもはじめてのことばかりだと思います。そこで今回は、昨年1年間の経験と比較した感想を交えた「遠隔授業への臨み方と工夫」というテーマで、筆を執りたいと思います。

遠隔授業と通常授業はさまざまな違いがありますが、特に私は気持ちを切り替えるのに苦労しています。講義室の椅子に着席することで「授業に臨む」気持ちになる私は、最初の遠隔授業で戸惑いました。これでは昨晩に事前課題を解いたときと気持ちが同じだと気付いたのです。そこで私は「講義の20分前にはパソコンの電源を入れる」という決まりをつくりました。2週間ほど続けていますが、少しずつ切り替えができるようになっていく気がします。加えて、大学構内であれば、授業と授業の間に移動が必要です。しかし遠隔授業では、ずっと同じ場所で講義を受けます。そのため長時間座り続けるのを避けて、授業後には必ず立ったり歩いたり、動くようにしています。天気がいよい日には、窓を開けて気分を入れ替え、そして新鮮な気持ちでパソコンの前に座るようにしています。

講義終了後には課題やコメントペーパーなどが課せられますが、これらにも授業形態の変化の影響を感じました。遠隔授業では、印刷したものを提出することはあまりないと思います。その代わりに、提出方法として用いられるのはメールやWebClassです。メールでの提出は通常授業でも行われていたため、問題なく行うことができました。私が困惑したのはWebClassでの提出です。ファイルを提出する場合は送信完了のお知らせが届くため、ちゃんと提出できた安心感を得られますが、

国際文化コース2年次 工藤やよい

直接打ち込んで提出する課題は「終了」を押すと「登録は完了しました。ご協力ありがとうございました！」と表示されるだけです。提出したという感覚が薄く、確認もままならないため、提出できたのか心配性の私は不安になってしまいます。対策として、手帳に記した課題に丸をつけるようにしました。丸は出したという証にもなりますし「わざわざ丸をしたということは、ちゃんと提出したんだ」と思えるようになるからです。

また、学生生活を送っていると必ず存在するのが「空きコマ」です。私は昨年、空きコマのほとんどを大学で過ごしました。特に予定がない場合は友人との過ごす時間に、必要なときは課題、予習や復習時間にすることが多かったと思います。しかし、今は空きコマで掃除も洗濯もできるのです。そのため、授業と授業の合間であるという風にあまり思えません。授業があることを、忘れそうになることもありました。だからといって気をゆるめすぎるのもいけないので、適度に意識するように心掛けています。

今回は遠隔授業への臨み方と工夫について書かせていただきました。皆さんはどのように、授業に臨んでいるのでしょうか。私の工夫がお役に立つことがあれば嬉しいです。皆さんの工夫も、ぜひ知りたいです。

最後に、私が考える大学構内の魅力を少しだけお伝えしたいと思います。キャンパスには緑が多くあり、季節を感じるができます。そして大学は、猫のひなたぼっこスポットや、戯れスポットになることもあるのです。猫に食べ物を与えるなどの行為はいけませんが、キャンパスを闊歩する彼らの姿はとても可愛らしいです。つい眺めてしまいます。

彼らも今は密状態を避けているのだろうか、なんて冗談めいたことを思いながら、筆をおきたいと思います。猫たちにも皆さんにも、会うことのできる日を心待ちにしています。



昨年春、大学構内にて



新緑の季節



人気のないキャンパス（休日ですが）



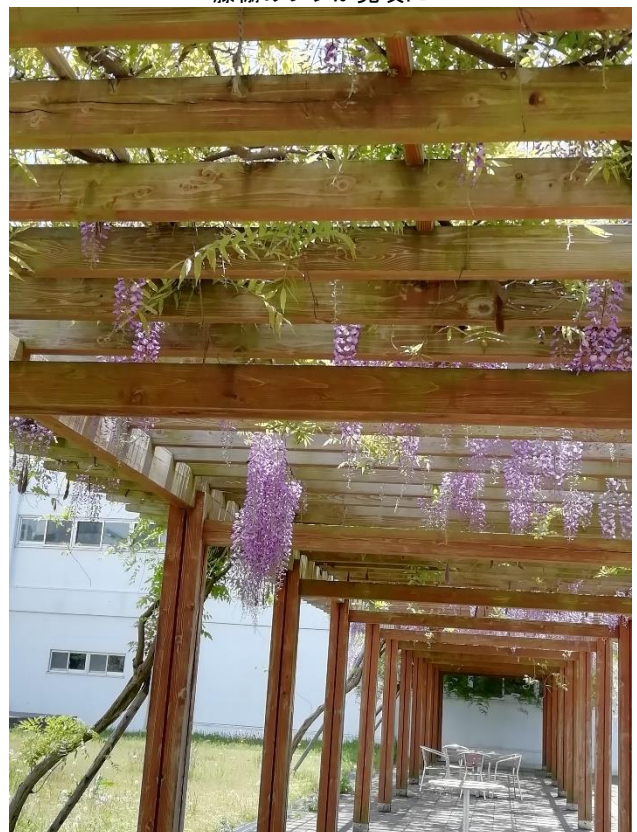
60周年記念ホール壁画とツツジ



藤棚のフジが見頃に



入構規制中の正門



指導教官から指導教員へ—学部の歴史をたどる②

2004年の法人化以前、秋田大学の教職員は国家公務員でした。教員は文部教官、事務職員は文部事務官、技術職員は文部技官でした。法人化により国家公務員ではなくなり、国立大学法人という独立行政法人によって雇用される職員、教員という身分となります。基本的には私立大学、民間企業と同じ立場です。ただ、文部科学省共済組合には残り続けていますし、本省と大学、大学間を異動する事務職員がいること、大学予算の3分の1ほどは国からの運営費交付金によってまかなわれ、そこから給料が支払われている点で、私立大学などとは状況が異なります。それ故、法人化以前は卒論を指導する教員、指導教員のことを「指導教官」と呼んでいました。

法人化に伴い、文部教官はいなくなりました。少年院や少年鑑別所など非行少年の教育にあっているのは法務教官になります（心理検査などを行う心理職の人は法務技官）。防衛大学校や気象大学校など国の文科省以外の省庁の大学校は教官がいますし、警察大学校や消防大学校はもちろん、自治体の警察学校や消防学校などの教員も教官と呼ばれることが多いようです。警察官、消防官というように「官」がつくからでしょう。自動車教習所はほとんど民間ですが、教官と呼ばれることが多いのは、元が警官だったりするからでしょうか。

戦前の帝国大学の場合、総長は「勅任官」で、教授、助教授と書記官（現在の事務長）は「奏任官」、その他の書記（事務員）は「判任官」でした。勅任官は、天皇が任命する高等官一等、二等の者で、奏任官は、行政長官が天皇にその人事を奏請し勅裁を経て任命する高等官三等以下の者、判任官は、行政長官が自分の権限において有資格者の中から自由に任命できる者でした。

なお、東京大学など旧制帝大の学長のことを「総長」と呼ぶのは、東京大学発足時（後に帝国大学、東京帝国大学となる）、その下に、学部ではなく、法科大学、文科大学、工科大学などがあり、その長として学部長ではなく、学長が置かれていたので、区別して「総長」と呼んでいた伝統が未だに続いていることが理由になります。東大などで長らく、係長を掛長と表記していたのも戦前の名残です。

法人化以前の給料は人事院が決めていて、大学教員は教育職第一表に規定され、教務職員（戦前の副手）が1級、助手が2級、講師が3級、助教授が4級、教授が5級となっていました。現在、教務職員は存在しません。助手は「助手」と「助教」に分離しています。助教授は准教授となって

います。教育文化学部には助手がいた時代もありますが、今はいません。理工学部、国際資源学部、医学部には助教、医学部には助手（看護助手など）がいます。

法人化後、教職員の給与は各大学で決定することができますのですが、ほとんどは国家公務員時代を引き継いで、毎年的人事院勧告に従って改訂されています。全国の国立大学の給料は一律なわけではなく、以前は大都市調整手当、現在は地域手当によって格差があり、一番高いのは東京23区に職場があるもので、20%が加算されています。

級地	主な支給地域	支給割合
1級地	東京都特別区	20/100
2級地	大阪市、横浜市	16/100
3級地	さいたま市、千葉市、名古屋市	15/100
4級地	神戸市	12/100
5級地	水戸市、大津市、京都市、奈良市、広島市、福岡市	10/100
6級地	仙台市、宇都宮市、甲府市、岐阜市、静岡市、津市、和歌山市、高松市	6/100
7級地	札幌市、前橋市、新潟市、富山市、金沢市、福井市、長野市、岡山市、徳島市、長崎市	3/100

秋田は0%なわけですが、寒冷地手当が支給されています。寒冷地手当は昔、薪炭手当と言って、10月頃に一括して給料ひと月分くらいが支給されていたようです。この時期はまだ薪や炭が安いので、安いうちに買いだめしておくように、ということだったそうです。今は冬の間11月～3月の5ヶ月間、分割されて支給されると同時に、金額もずいぶん少なくなっています。秋田は4級で、1～3級は北海道です。温暖化が進んで暖冬が続いていますので、寒冷地手当がなくなって、南では暑熱地手当が出るような時代になるかもしれません。

地域の区分	世帯等の区分		その他の職員	代表例
	世帯主である職員	扶養親族のある職員		
1級地	26,380円	14,580円	10,340円	旭川市、帯広市
2級地	23,360円	13,060円	8,800円	札幌市、釧路市
3級地	22,540円	12,860円	8,600円	函館市、室蘭市
4級地	17,800円	10,200円	7,360円	青森市、盛岡市、秋田市

法人化以前の国立大学には附属学校園がありましたので、人事院は大学教員だけでなく、初等中等学校の教員の給与も決めていました。教育公務員特例法では、公立学校の教員の給与は国家公務員に準じて決定することが求められていました。ところが、法人化によって国家公務員である教員はいなくなっています。また、折からの地方分権、規制緩和の流れによって、公立学校教員の給与は、条例によって決めると、教育公務員特例法は改正されます。人事院勧告によらないとされたことで、財政の厳しい自治体では、教員も含めて、給与をカットする事例が多発するようになりました。さらに、義務教育費国庫負担制度の改正で、総額裁

量制が取られるようになり、教員個々の給与を下げることで、非常勤も含め、より多くの教員を雇用する、といった選択肢が可能となりました。

多くの国立大学は法人化以前より 65 歳定年でした。大学を出てから大学院で 5 年以上過ごし、定職に就くまでにオーバードクターのような無職時代を長く経験することもあるのですから、一般の公務員が 60 歳定年であるのに比較して、定年が後ろ倒しになっていました。10 年ほど前までは東大は 60 歳定年、他の旧制帝大は 63 歳定年でした。私立大学など再就職先があったことや、後進に早く道を譲るべきだ、といったことが背景にあったと思われます。しかし、年金支給年齢が 65 歳まで延ばされるのに伴って、ほぼ東大なども、すべて 65 歳定年となりました。今後、一般の公務員や、初等中等学校の教員も定年が 65 歳まで延長されることとなります。そうすると、大学教員の定年はどうなるのでしょうか。また、年金支給が 70 歳まで伸びることになればどうなるのか、これも疑問なところです。大手の私立大学は、70 歳定年のところが多かったような気がしますが、人件費節減などのためか、67 歳あたりに下げているところが多くなっています。

戦前の小学校の正規の教員は、訓導（非正規の無資格の者は代用教員と呼ばれていた）であり、中等教育の学校の正規の教員は教諭で、一定数の教授がいることもありました。

官公立の学校教師は官吏であり、訓導は判任官待遇でした。一定数の校長に限り奏任官待遇を受けることができました。教諭は判任官あるいは判任官待遇で、一定数の奏任官あるいは奏任官待遇のものがあり、校長はいずれも奏任官あるいは奏任官待遇でした。

公立学校の教員は、官吏とされていましたが、俸給は国庫からは支給されず、地方公共団体が負担していて、これを「待遇官吏」と呼んでいました。待遇官吏には巡査や看守なども含まれます。正式に高等官または判任官とされませんが、公の儀礼において勅任官、奏任官、判任官に相当する待遇を受ける者です。なぜ、官吏と位置づけられ

るかと言えば、国家に対し忠実かつ無定量の勤務に服すべき公法上の義務を負っていたからです。その意味で、戦前の学校教員は国、公に従順で、反抗・反対することなく、天皇の官吏として、子どもたち、国民を善導、教化、醇化するという役割を負わされていました。戦後も、教育公務員特例法により、教員に対する政治的行為の禁止が、地方公務員法ではなく、国家公務員法の規定によつてされ、人事院規則で縛られていることは戦前の名残でしょう。

「官」という言葉はなんとなく威圧的です。天皇に近い立場にあつて尊い存在であり、一般国民を上から管理統制するイメージです。しかし、大日本帝国憲法の時代ではなく、戦後の日本国憲法の下では、主権者は国民です。公務員は全体の奉仕者であり、国民の権利を実現すべき責務を担っています。国民の教育を受ける権利、学習権はもちろんのこと、大学などの研究機関の研究の成果を享受する権利も国民のあるはずでしょう。特に国立、公立の教育・研究機関であれば、それを支える税金を負担しているのも国民です。学生は国民の立場にあります。もちろん、大学の教員も国民ではありますが、教育者、研究者としては、学生などの権利を職務上、職責上実現すべき立場に立っています。その意味で、「指導教官」ではなく、「指導教員」となったのは、とても意義深いと思うのですが、どうでしょうか。

【文責：佐藤修司】



発行 **秋田大学教育文化学部／教育学研究科**

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html

教職大学院通信「暁鐘の音（かねのね）」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html

* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌（1910年制作）を聴くことができます。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧ください。